

ジェイアールバス東北本部

第14号

2022年11月7日

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡1-4-3 JR東労組仙台地方本部内
NTT:022-297-0155 JR:031-3981~3983
発責：佐藤 秀一 編集：情宣部

申2号「2022年度冬季ダイヤに関する申し入れ」について団体交渉を行う！②

4. 健康維持と休息時間確保の観点から、各現場において拘束時間が13時間を超えるダイヤについては、最大限できる範囲で13時間以内とすること。

(組合) 安全と健康を担保するために13時間を超えるダイヤに関しては、改善基準告示である13時間までとするべきである。特に最近のバス事故を見ると、バス会社の労務管理問題が各報道で取り沙汰されており、バス会社に対して世間の見る目が厳しくなっていることを踏まえれば拘束時間は13時間までとするべきである。

(会社) 2023年4月から改善基準告示が変更となるため、議論中である。拘束時間に関しては、問題意識は持っており今後も改善に努めていく。

5. 福島支店運行の「あぶくま号」について、特に下り便の郡山駅から福島駅東口間の所定運行時分と比較して、実際は慢性的な遅延運行となっていることから所定運行時分を見直すこと。

(組合) 福島支店のあぶくま号の下り便の郡山駅から福島駅間で慢性的な遅延運行となっている。職場から所定運行時分の見直しなど改善が求められている。会社の考えを明らかにすること。

(会社) 慢性的な遅延というのは本社でも把握しており、実態に合わせて時分の調整が必要であると考えている。2023年度の夏季ダイヤに向けて改善したいと考えている。

6. 福島支店運行の仙台～米沢便について、国見SAにおける休憩時間が5分と短いため、お客さまへのサービス上の観点からも現行の5分から10分以上の休憩時分となるよう見直すこと。

(組合) 福島支店運行の仙台～米沢便で、国見SA休憩時間がトイレ休憩として5分は短いと考えている。お客様の立場を考え休憩時分を見直すべきである。

(会社) お客さまから「短い」という御意見を受けたことがない。また、お客さまからの御意見を預かったという報告もないため、現状通りとする。今後お客様の声や動向を見ながら柔軟に対応していく。

7. 現在、減便や運行を休止している各高速路線の運行再開も含めて、今後のダイヤ施策についての考えを明らかにすること。

(組合) 運行再開を検討している路線と列車代行の見通しを明らかにすること。

(会社) 列車代行と要員の関係もあるが、まずは収益性の高い路線からやっていきたい。仙台～会津便は12月2日から週末運行を再開し、列車代行についてはJR花輪線とJR磐越西線は来年3月までの予定であると聞いている。会社としては動向を見ながら収益性を重視した路線運行を考えていくが、全便再開とは、今のところ考えていない。

各分会で議論し

今後も問題解決に向け声を上げていこう！

